

「サンデー・ブランチ・ワルツ」

作・李奈媛

一文あらずじ

コロナで帰れなくなったオリンピック選手たちが国へ帰るため必死にストライキを起こすが、祖国から日本から見放され、結局日雇い労働者になり貧しい生活を送る。

人物

選手1 男。20代。ある国のウェイトリフティングオリンピック代表。

選手2 女。20代。ある国のバドミントンオリンピック代表。

妻 女。息子を妊娠している。

【act.1】

誰もいない舞台。

ここは選手1が隔離されている施設。

真ん中には透明スクリーンだけが置いてある。

スクリーンにはビデオ通話アプリの動画が映し出され、妻の姿が現れる。

妻、ワルツを踊り始める。

選手1、やってくる。

透明スクリーンの前に立つ。

選手1、妻のステップに合わせてワルツを踊る。

曲は流れてない。

動きだけある。

選手1

（踊りながら）コロナよりさ、ビデオ通話の方が災難って感じかな。俺は。

動きを止める妻、笑う。

妻

え、もっと自由に踊れる気がして良くない？

動きを止める選手1。

選手1

ランチ食べたばかりだし、最近体重いんだよな。

妻

減量は上手くいってるの？

選手1

恐らく。そう、聞いてよ、昨日はタンパク質230gも摂取したんだよ。凄くない？

妻

ステーキ10枚分かあ。じゃあ、ちょっと見せてよ、成果。

選手1

え、俺10分後練習なんだけど。

妻

（お腹をさする）ほら、パパが出国する前に最終チェックしたいんだって。

選手1

まだ心臓くらいしか形成されてないだろう。

妻

十分じゃん！

選手1、歩いてゆき、プラットフォーム上のバーベルを両手で握る。

ワルツ曲が流れる。

バーベルを一気に頭上に引き上げる選手1。

ワルツ曲に合わせてウェイトリフティングの練習をする。

【act.2】

選手2を含め、4、5人の選手たちが集まり、円になっている。
ここはオリンピック選手たちが練習している東京体育館。
それぞれサッカーやフェンシング等、自分の競技の練習をしている。
そこに両手を横に伸ばし、飛行機の真似をしながらやってくる選手1。

選手1

ブイーン

しかし、誰も選手1に注目しない。
選手たちの様子を見て、自分もウェイトリフティングの練習を始める選手1。」
その時ラジオからニュース速報が流れる。

ラジオ

国土交通省によると、新型コロナウイルス第12派の影響を受け、成田空港では10日から2本の滑走路が閉鎖され、全3路線が運休することが発表されました。運休に伴い空港ターミナルの一部施設も臨時休業すると……

それを聞いて一人ずつ動作を止める選手たち。
外国語で家族と電話したり、拝礼を始めたたり、地元の料理を作ったりする選手たち。

呆然とそれを見ている選手1。

選手1

なにこれ。ホームシックとかの段階を超えてるだろ、こりゃ。

選手2

外は災難だから。ノアの箱舟って聞いたことある？

選手1

最強エゴイストの話ね。

選手2

違うよ。地球上の動物のつがい箱舟に乗せて、災難から生き残る話。

選手1

地上に生きていたものは全部滅亡したじゃん、大洪水で。何なら殺人鬼だよ。

反省した方がいい。

顔をしかめる選手2。

選手2

うーん、じゃあ私たちは選ばれたのかもよ。地球最後の子孫として。

選手1

じゃあ結局俺はお前と生殖して、また子孫を残さないといけないってこと？

選手2

……マツチヨは無理。

選手1

おい！こう見えて俺、祖国では地球も持ち上げれる男と呼ばれたんだぞ。

選手2

こっちはバドミンソンの女帝なんですけど。

選手2の言葉を無視して立ち上がる選手1、ワルツを踊り始める。

選手2
いきなりなに？怖い。格好悪い。

選手1
女帝のくせにワルツも知らないのかよ。

選手2
なんで今なの？

選手1
日曜日だから。

選手2
……こんな状況なのによく踊れるね。

選手1、ノリノリで踊っている。

その時、通話中だった選手3が泣きじゃくる。

驚き、ワルツをやめて選手3の方を見つめる選手1。

選手2
死んだんだって。

選手1
え？

選手2
父親がコロナで亡くなったらしい。

選手1
どうやって分かったの？あの言葉喋れるの？

選手2
いや、ほら、もう言葉違いとか意味ないんだよ。
選手1
は？

嗚咽する選手3を囲み始める選手たち。

その時、赤ちゃんの泣き声が響き渡る。

選手1
あ！

選手2
え？

選手1
生まれたかも。

選手2
誰？

選手1
俺の息子。

選手2
散歩でもしようーと。

退場する選手2。

横になり、体を丸める選手3。

選手たち、一人ずつお香を焚いて、選手3の周りに集まる。

選手1、急いで妻に電話をかける。

選手1
もしもし？生まれたよな！

【act. 3】

選手1、選手2、選手4、三人しかない。

それぞれウェイトリフティング、バドミントン、サッカーの練習をやっている。

ここはオリンピック選手たちが練習している選手村の小さい練習場。

そこにスタッフがやってくる。

ソーシャルダンスを気にしすぎの様子で、三人から凄く離れたところに三人分のお弁当を置く。

選手1、ゆっくりバーベルを床に下ろす。

そのまま去っていくとするスタッフに声をかける選手1

選手1
あの！

スタッフ
（思い出したように）あ！

振り返るスタッフ、選手1と目が合う。

スタッフ
あ、どうぞ。すみません。

選手1
いや、あの、話ませんか？

スタッフ
はい？

選手1
ちょっと、この状態ってやっぱりおかしくないですか。

スタッフ
それは、そうですね。誠に申し訳ございません。

選手1
だから、謝れば良いって問題じゃなくて。具体的な対策ってあるんですか？オリンピックって本当に開かれるんですか？

スタッフ
それが、あの……

選手1
しっかり今後のプランを説明してくださいよ！（選手2、4を見ながら）なあ！

頷く選手2、4。

スタッフ
あ、それは、ちゃんと説明いたします。この体育館は来週閉鎖されます。
選手1
はあ？

スタッフ
これから皆さん、各地での自主練習になりますので、今後よろしくお願いいたします。

呆然と立ち尽くしている選手1。

【act. 4】

ここはある町の24時間年中無休フィットネスジム。

選手1、会員1がベンチプレスのやり方を教えている。
バーをゆっくりと持ち上げる会員1。

選手1

肩甲骨を寄せて、胸を張る。

伸ばした腕を曲げて、自分の胸につくまでゆっくり下ろす。
それを見ながらどんだん声あげる選手1。

選手1

肩甲骨を寄せて、胸を張る。肩甲骨を寄せて、胸を張る。
肩甲骨を寄せて、胸を張る！肩甲骨を寄せて、胸を張る！

会員1

（奇声）きーーーーーああああああ！

驚かない選手1。

ベンチプレスから起き上がる会員1、気が狂ったようにベンチプレスマシンを何回か足で蹴る。

手でマシンをひっくり返そうとするが、さすが無理である。

選手1、そんな会員1を睨みつける。

会員1

もううんざりなんだよ。ていうか、なんだよ、お前は。なんなんだよ。

選手1

ちゃんとやってくれないと相手に伝わらないぞ。

会員1

なにこういう時までかっこつけてるんだよ。そもそもさ、スパルタにも程度つてもんがあるんだよ！本当に死にそうなんだ、こっちは！

選手1

スラムダンクとあしたのジョーの国に生まれたやつが何弱音吐いてるんだ。

会員1

戻れ。肩甲骨を寄せて、胸を張るんだ。

だからそれは洗脳教育みたいなもんだってば。リアルのやつらがあまりにもダラダラしすぎてから、作り上げたフィクションの世界。ファンタジー、可愛い地下アイドルの彼女とデイズニーシー行ける、的な。なんならオカルトだよ。

選手1

フィクション？ファンタジー？

会員1

そうそう。現実で漫画の主人公みたいな生活してたらもうとくに死んでた。

選手1

でも、俺はそのフィクションとファンタジーのお陰で頑張れた。ここまでこれた。

会員1

はい、決定。犠牲者だね。

選手1

おい、俺をなんだと思ってんだ！

会員1

キラキラスポーツ漫画の犠牲者。兼トレーナーっしょ？いや、でもさ、ちょっと聞いてよ。漫画でもこんなハードトレーニングはなかったよ。オリンピック選手もここまではしないっしょ。

選手1

舐めるなよ。

会員1

はい？

選手1

オリンピック選手を舐めるな。

会員1

あんたにオリンピック選手の何が分かるんだよ。ベンチプレス教えるのも出来ないくせに。

会員1、もう一度マシンを蹴って、ひっくり返そうとするが、また失敗。

急いで出て行く。

マシンを簡単にひっくり返す選手1。

【act.5】

舞台の上で大の字に寝ていた選手1、目覚める。

ここは選手村の一室。

選手1は餓死直前の状態。

隣に置いておいた粉（プロテイン）を片手で一握りして食べる。

咳き込む選手1。

そこにやってくる選手2。

選手2

それ何の粉？

選手1

プロテイン。

選手2

水に溶かして飲むものじゃないっけ、それ。

選手1

飲むとすぐなくなるんだよ。ていうかもう話かけるな。腹減って死にそうだから。

選手2、手に持っていたお弁当を選手1に渡す。

体を起こす選手1、選手2からお弁当を奪い取り飲み込むように食べる。

その隣に座る選手2、話し始める。

選手2

アリオの前にあるでしょう、公園。そこでバドミントンの練習してたら、中学生くらいのがきんちよが来て言うのよ。なに、おばさんちよとやるやん、みたいなの？それで試合になったのね。どっちかというとおばさんって言われた

ことがショックでイラツとして。最近美容室もエステも行っていないし、化粧品買うお金もないから自然体なんだけど。そっか、自然体の自分っておばさんって呼ばれるんだ、と思つて。まあ、ね。嫌じゃん。普通に。うん？そんで、なんだっけ。そう、勝負したのよ。がきんちよと真剣勝負を。当たり前に私が勝つでしょう、そりゃ。でもなんかそのがきんちよ全く敗北を認めなくて。それってスポーツマンシップに違反する行為じゃんか。そんなのやっぱ私たちとしてはそのままほっとけない問題じゃんか。がきんちよはいつの間にかわんわん泣いてるし、ちようどそのがきんちよの母っぽい人が向こうから走ってくるし。それで急いでお弁当盗んで逃げたの。

食べることを一瞬止める選手1、お弁当を見下ろす。

選手1 ……窃盗品？

選手2 勝利の証拠って言つてほしいんだけど。

選手1 お前さ、スポーツマンシップうんぬんの以前に、人間として失格だと思わない？人のものを盗むなんて、どうにかしてるよ。

選手2 じゃあ戻して、お弁当。

選手1 犯罪の証拠は食べてなくさないと。

食べ続ける選手1。

選手2 荷造りは終わったの？

選手1 荷物ってもんもないさ。金になりそうなのは全部売ってしまったし。

選手2 最近家族からは連絡ない？

選手1 ある。

選手2 ないっか。

選手1 あるって。

選手2 うん。

選手2、荷造りを始める。

選手2 明日面接落ちたらどうしよう。

選手1 おい、俺らオリンピック選手なんだぞ。国を代表するスポーツジンザイ。スポーツクラブくらいは余裕で入れるっしょ。

【act.9】

コンビニ制服を着てマスクをつけている選手1、選手2。

ここは二人がクラスシェアハウスの近くのコンビニである。

距離をあけて立っている。

二人の間には透明スクリーン。

感染予防のためのパテーションとして機能している。

選手2
消えたっていうか、絶対逃げたと思う。水着とゴーグルもなくなったんだよ。

選手1
いやいや、国際線は全便が運休ってニュース出てたし。

選手2
でも泳げるからね、彼は。

客1がコンビニに入ってくる。

選手1
いらっしやいませ！（選手2に）わかるよ。あれ？なんだっけ、そう、マラソ
ンスイミングでしょ、競技。

選手2
（頷く）2016年リオの金メダリスト。

選手1
うーん、いくらなんでもさ、海を泳いで渡るのって無理じゃん。常識的に。
選手2
去年はマラッカ・シンガポール海峡、その前にはスイスのジュネーブ湖をスイ
ス側のローザンヌからフランス側のエビアンレバンに渡って泳ぎきったんだ
って。あ、コロンビアのティエラボンバ島、オーストラリアのボンダイビーチ・
ワトソンズベイ間とかも渡ったことあるって言ってた、確か。

店長、やってくる。

選手1と選手2をちらちら見る。

選手1
……そう言えばあいつ、顔もちょっとオットセイっぽかったもんな。なんかさ、
才能とか素質って顔からにじみ出るよね。不思議。

選手2
バドミントンって弱いよね。こういう時。

選手1
俺はバーベルとダンベルなんだぜ。もう人殺すしかないじゃん。脱出するには。
選手2
ダンベル殺人未遂事件かあ。あ、逆に強制送還されるんじゃない？

選手1、選手2に近寄る店長。

店長と選手1は日本語と日本語で対話しているが、言葉が通じない。

店長
もっとスマイルでいこうや、スマイル。ス、マ、イ、ル。

選手1
そうだ。店長、ちょっとシフトを変更したいんですけど。明日。

店長

全世界共通だろ？スマイルは。笑え。

選手1

休みたいんです。妻からとんでもない手紙が届いて、ちょっと至急電話したくて。

店長

だから笑えって。それくらいは出来るだろ？

選手1

時差って分かりますよね？明日のこの時間に連絡しないと出ないんです。ていうか、最近いつかけても出ない。

店長

なんか怖いな。笑えって言っただけなのに、何がそんな文句なんだ。

選手1

ちよっと、無視しないで下さいよ。いつも見て見ぬふり。聞いて聞かないふり。そうだ、そうだ。

選手2

はあ？なんなんだお前ら。

店長

だから、妻が離婚したいって言ってるんです！

選手1

接客業ってもんはな、そんな簡単じゃないんだ！スマイル精神だ！

イライラする選手1、店長の胸ぐらをつかみ上げる。

選手1

人が話したら聞けよ！

選手2

え？ちよっと、待ってよ。何するの！

店長

こ、この野郎！警察！警察呼ぶぞ！

選手1

人の話をちゃんと聞けよ！国に帰らせてよ！コロナなんか分からんけど！

店長

警察！

サイレンが鳴る。

【act.7】

ここはどこかの繁華街。

選手1、2を含め、4、5人の選手たちのデモ隊が進んでいる。

反対側に立っている警察の1、2、お菓子を食べながらそれを見ている。

警察1、お菓子を舞台の上にこぼしている。

「K A E R A S E R O」と書かれたプラカードを持っている選手たち。

サッカー選手はサッカーボールでドリブルをしたり、アーチェリー選手は弓で物を狙って矢を射ったり、柔道選手は柔道の技術を見せたり。

選手たちは必死である。

それをサーカスを見るように

怒った選手1、舞台に落ちている菓子くずを拾い、警察に投げる。

それでも笑い続ける警察。

選手1、持っていたダンベルを警察に投げる。
悲鳴と共に倒れる警察1。
それを見た選手2、驚愕する。

選手2
台無しにするなよ、バカ！

暗転。

【act.8】

ここは公園。
ベンチに寝っ転がっている選手1。
女の子1、2、ベンチに近寄る。

女の子1
知ってる？これ、ホームミスって言うんだよ。
女の子2
そうなの？ホームネスじゃなかったっけ？
女の子1
違う違う。ホームミスなんだから！
選手1
ふむ……ミス……ホームミス……。

女の子たち、手に持っていたショベルで土に穴を掘り、種を埋める。

女の子1
知ってる？どの種も必ず根から生えてくるんだよ。
女の子2
根っこが大事っていうもんね。
女の子1
そんな言葉はない。
女の子2
出た、意地悪の種！

その時、急に体を起こす選手1。

選手1
いい事言っただな、お前たち！
女の子1
キャー起きた起きた！
女の子2
ホームミス！
選手1
根として返るんだ！

【act.9】

選手1、うつ伏せのまま目を閉じている。

側にはシヨベルや振動ドリルなど、穴を掘る時に使う道具。
選手1がヘルメットにつけていたヘッドライトの電池が切れる。

【act.10】

選手1の背後の透明スクリーンには映像が映し出される。
少年が少女と博物館を歩き回っている。
聳えている地層タワーの前に立ち止まる少女。

少年
え、なに？
少女
なんか光ったの。

一度地層タワーを見上げる少年、苦笑い。

少年
馬鹿。俺そろそろ出るから。
少女
どこ行くの？
少年
ダンス教室。今ワルツ習ってる。言っていないけ。
少女
へえー日曜日なのに偉いね。
少年
日曜日だからなんだよ。
少女
変なの。
少年
じゃあ。

映像が終わる。
ワルツ曲が流れる。
リズムに乗って点滅する選手1のヘッドライト。

「サンデー・ブランチ・ワルツ」おわり